

1.研修プログラムの名称

感染症科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

初期研修医の間に習得すべき最低限必要な感染症診療の基礎と感染対策の習得を行うコースである。

3.一般目標

いずれの科に進むとしても携わることになる感染症診療ならびに感染制御の基本を身につけるとともに、微生物検査室や薬剤部との協力の大切さを学ぶ。最低限必要な感染症診療の基礎を感染臓器、起因微生物、治療薬を意識しながら担当症例を通じ習得する。各種クルズスに参加し系統的な学習も平行する。

4.具体的目標

1) 経験すべき診察法・検査・手技

- 1.全身の観察（バイタルサイン、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- 2.頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭、甲状腺を含む）ができ、記載できる
- 3.胸部の診察ができ、記載できる
- 4.腹部の診察ができ、記載できる
- 5.泌尿・生殖器の診察ができ、記載できる
- 6.細菌学的検査・薬剤感受性検査・検体の採取（単、尿、血液など）・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）の適応が判断でき、結果の解釈ができる

2) 経験すべき症状・病態・疾患

- 7.発熱を診察し、治療に参加できる
- 8.急性感染症について初期治療に参加できる
- 9.中枢神経感染症を診察し、治療に参加できる
- 10.皮膚軟部組織感染症を診察し、治療に参加できる
- 11.呼吸器感染症を診察し、治療に参加できる
- 12.肝胆道系感染症を診察し、治療に参加できる
- 13.腎・泌尿器感染症を診察し、治療に参加できる
- 14.骨・関節感染症を診察し、治療に参加できる
- 15.腸管感染症を診察し、治療に参加できる
- 16.血流感染症を診察し、治療に参加できる
- 17.性感染症を診察し、治療に参加できる
- 18.ウイルス感染症を診察し、治療に参加できる
- 19.HIV 感染症を診察し、治療に参加できる
- 20.一般細菌感染症を診察し、治療に参加できる
- 21.結核菌感染症を診察し、治療に参加できる
- 22.真菌感染症を診察し、治療に参加できる
- 23.寄生虫疾患を診察し、治療に参加できる
- 24.小児感染症を診察し、治療に参加できる

3) 全科共通項目

- 25.診療録（退院サマリーを含む）をPOSに従って記載し管理できる
- 26.処方箋、指示箋を作成し管理できる
- 27.診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
- 28.保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5.指導体制・方略

- 1) 研修指導医とともに症例を担当し下記の方略で研修を行う。
感染症科入院症例を担当し、診断・治療の参加に加え、社会的背景を踏まえた評価と介入を行う。
- 2) 血液培養陽性例の症例シートを作成し、病歴聴取や身体診察を行い、指導医とともに主治医チームと連絡を取り、適切な感染症診療の実践に協力する。
- 3) 高度耐性菌や Clostridioides difficile 検出例の症例シートを作成し、必要に応じて指導医とともに主治医チームと連絡を取り、適切な感染症診療・感染予防策の実践に協力する。
- 4) 感染症コンサルテーション例について、病歴聴取や身体診察を行い、適切な診療計画を指導医とともに作成し、主治医チームと連絡を取りながら、適切な感染症診療の実践に協力する。
- 5) 微生物検査室実習（午前・5日間）において、微生物検査の基礎的な知識や手技を学ぶ。
- 6) クルズス（合計 11 回シリーズ）で、感染症診療ならびに微生物学・抗菌薬・感染対策の基本を学ぶ。
- 7) ICTC（Infection control training course）に参加し、感染対策に関する実技を習得する。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
8:00 頃～	担当患者の状態把握および全体回診					
9:00～	感染症科 meeting					
9:15 頃～	担当症例のショートカンファ					
10:00～	Microbiology(微生物検査室)ラウンド					
10:30～	担当患者の診療、カルテ記載、主治医との協議など					
13:30～	病棟カンファ	感染カンファ 救命カンファ			全体カンファ	
16:00 頃～	担当症例のショートカンファ、クルズスなど					

クルズスの内容：

感染症診療の原則、感染症の診断、微生物各論、治療総論、治療各論①～③、耐性菌と感染対策、HIV・輸入感染症、呼吸器感染症、薬剤について

7.研修活動

- ・ Infection Control Team (ICT)：状況に応じて ICT に加わり、院内感染対策に携わる。
- ・ Antimicrobial Stewardship Team (AST)：担当症例を通じて抗菌薬適正使用を推進し、AST 活動に携わる。

8.評価

- 1) 自己評価
患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する
EPOC を用いて自己評価を行う
研修事後レポートを用いて自己評価を行う
- 2) 指導医による評価
EPOC を用いて評価する
研修事後レポートより評価する
他者評価表を用いて評価する
研修終了時にミニテストや担当テーマに関する発表を行い、振り返りを行う
- 3) コメディカルによる評価
EPOC 又は評価表を用いて評価する
他者評価表を用いて評価する
- 4) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する
評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項